

堺市民会館建設工事基本設計業務

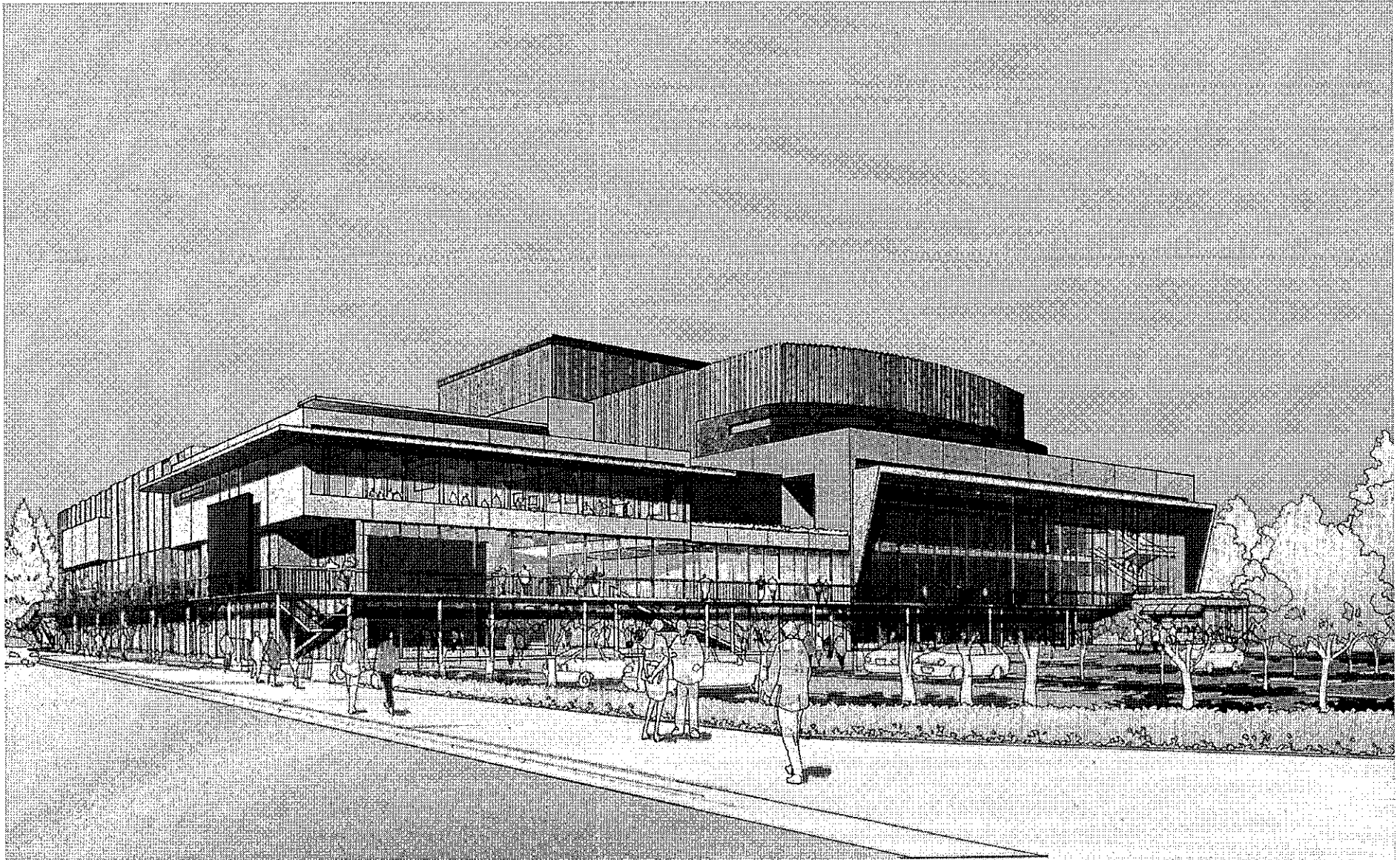
基本設計図書（概要版）

平成26年9月

柳澤孝彦+TAK建築研究所・MORIデザイン建築事務所設計共同体

代表構成員

株式会社柳澤孝彦タック建築研究所
代表取締役 柳澤孝彦



(2) 計画概要

① 建築概要

- ・ 建築名称 : (仮称)堺市民会館
- ・ 主要用途 : 劇場
- ・ 敷地 : 堺市堺区翁橋町2丁地内
- ・ 敷地面積 : 14,823㎡
- ・ 用途地域 : 商業地域
- ・ 防火地域指定 : 防火地域、駐車場整備地区内、埋蔵文化財包蔵地内(翁橋遺跡)
- ・ 日影制限 : なし
- ・ 指定建蔽率 : 80%
- ・ 指定容積率 : 国道310号沿い25m 600%
同沿道後背地 400%
- ・ 接道路 : 南側-国道 310号 幅員 50m
市道 新町9号線 幅員 6m
西側-市道 翁橋3号線 幅員 15m
北側-市道 新町6号線 幅員 8m

- ・ 階数 : 地上6階、地下1階
- ・ 最高高さ : 36.0m
- ・ 構造規模 : 鉄筋コンクリート造(一部鉄骨造)
- ・ 基礎構造 : 直接基礎
- ・ 耐火種別 : 耐火建築物
- ・ 建築面積 : 7,727㎡
- ・ 延床面積 : 19,678㎡

- ・ 駐車場 : 118台(うちVIP用2台、身障者用3台/施設関係者用18台)
- ・ 駐輪場 : 170台(施設北側140台、南側30台)

・ 施設構成

- ホール部門 大ホール(固定席2000席程度)
小ホール(固定席300席程度)
他付帯施設
- 交流・創造支援部門 交流・創作ギャラリー、大スタジオ、小スタジオ、
多目的室、文化交流室他
- 共用部門 エントランスロビー、託児スペース
レストラン、駐車場、駐輪場他
- 管理運営部門 管理事務室、倉庫、機械・電気室他

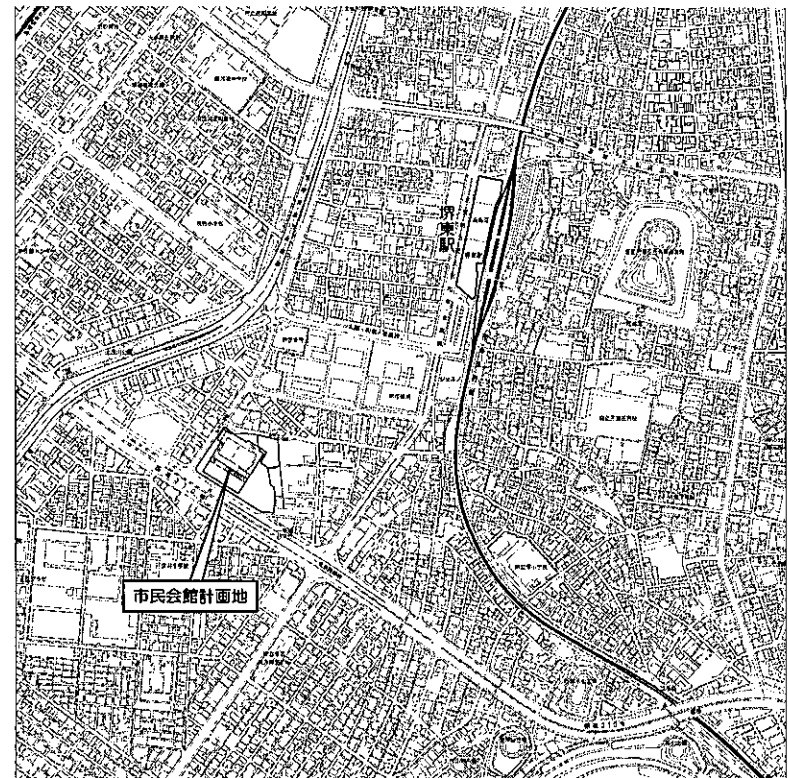
② 都市計画公園敷地概要

- ・ 公園名称 : 翁橋公園
(現翁橋公園(1,100㎡)に隣接 都市計画決定 昭和57年8月16日)
- ・ 敷地用途 : 防火地域、駐車場整備地区内、埋蔵文化財包蔵地内(翁橋遺跡)
- ・ 種別 : 街区公園
- ・ 敷地面積 : 1,900㎡

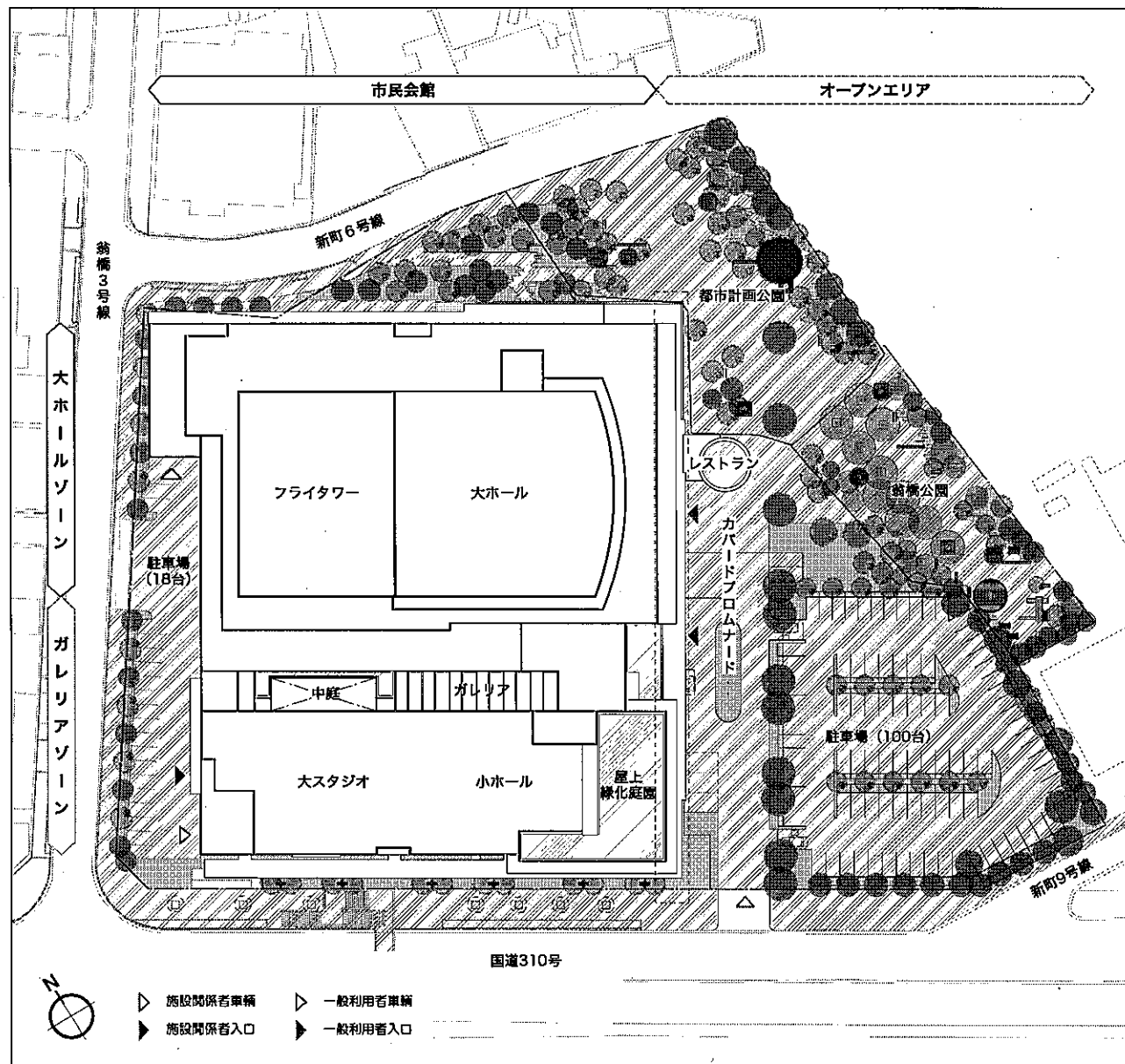
③ アクセス

- 南海電鉄高野線「堺東」駅から徒歩10分
- 南海電鉄高野線・JR阪和線「三国ヶ丘」駅から南海バス⇒「一条通(市民会館前)」バス停
- 南海電鉄南海本線「堺」駅から南海バス⇒「一条通(市民会館前)」バス停
- 南海電鉄高野線・京北高速鉄道・地下鉄御堂筋線「中百舌鳥」駅から南海バス⇒「一条通(市民会館前)」バス停

④ 案内図



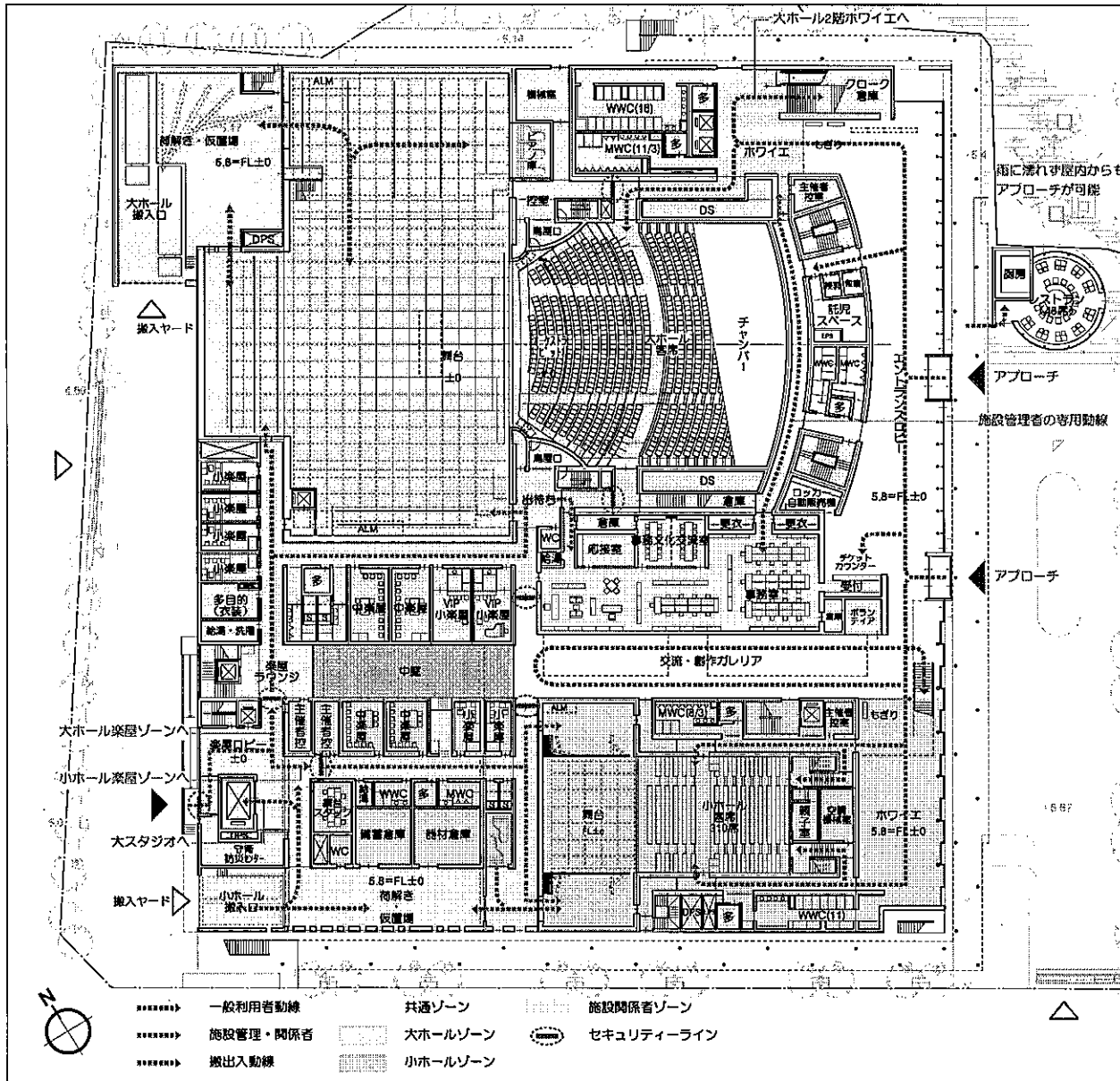
案内図 S=1:10,000



(1) 配置計画

- ① 深い緑地に囲まれた非日常の世界
都市計画公園、翁橋公園の緑を劇場ゾーンの周囲に巡らせて、密集する都市環境から切り取られたように緑に囲まれた空間が市民の心をときめかす非日常性を湛える。
- ② オープンエリアと市民会館が呼応する景観
国道310号（フェニックス通り）から新町6号線へと貫く、空中舗道・プロムナードの東側に都市計画公園、翁橋公園、駐車場からなる緑化オープンエリアを設け、これと向き合う西側に市民会館を配置し、それぞれに特色ある空間が相互に呼応し合う景観を創り出す。
- ③ 歩行者を迎え入れる「前庭」
堺東駅からの歩行者動線を考慮し、翁橋公園と連続する前面緑地（都市計画公園）を市民会館の「前庭」と捉え、公園に向けて開かれたエントランスとホワイエを設ける。
- ④ 施設入口の主動線
敷地中央を南北に貫くプロムナードは各ホールのホワイエ及びギャラリーの視認性の高い開放的なロビー空間へと動線を導く。歩行者動線は前庭からプロムナードへ、車輛動線は車寄せからプロムナードへと導かれる。
- ⑤ 周辺環境に配慮した大・小ホールの配置
国道側に配した低層の小ホールは大ホールのボリュームを選ざけて、ヒューマンスケールの街並みを国道に形成する。また、国道の騒音・振動からの精隔を確保し、大ホールを北側に配置する。
- ⑥ 木々が織り成す緑のシークエンス
来館者のメインアプローチ空間となる東面は、既存の翁橋公園と都市計画公園が連続する樹木が立ち並び、深い緑を抜けると整然と並び高木の樹間からは非日常性を湛える劇場空間が垣間見え、来館者の心の高鳴りを演じる。
- ⑦ 市民交流の基点となるレストラン・テラス
都市計画公園に面し、国道からの視認性も高い施設前面に市民の憩い・交流の場となるレストランとテラスを設ける。都市に賑わいと回遊性をもたらす市民交流の基点となり周辺街区からの利用の核ともなる。
- ⑧ 動線の明確な分離
敷地西側には搬入口、施設関係者の入口を設け、一般利用者との動線を明確に分ける。

配置図 1/500



(3) 平面計画 - 1

基本方針

平面計画は簡潔で合理的な構成とし、わかり易く使い易い配置とする。直行する動線を組込んだ平面配置は、元和の合理的な町割りにも似て出会いの辻々が随所に配されている。

① ガレリアゾーン

市民の身近な創作・自己実現の場として、小ホール、大スタジオ

をはじめ多くの練習室・文化交流室群が配列されて、交流を促し発展させ、高天井の光溢れるガレリア空間が市民に親しみと安らぎを与える。

② 1階ホールゾーン

i 大ホール

大ホールには、エントランスロビーを北へと進んで1階ホワイエを経由してアプローチし、平土間前方客席は同一床レベルで中通路からアクセスし、その他の利用者は階段を上がって2階のメインホワイエへと至る計画とする。

ii 小ホール

小ホールには、エントランスロビーを南へと進み、南北ロビー軸の延長にあるホワイエへとアプローチする。市民に身近なホールとしてホワイエでの人の賑わいが、外部へと表出することを意図した計画とする。

③ 楽屋ゾーン

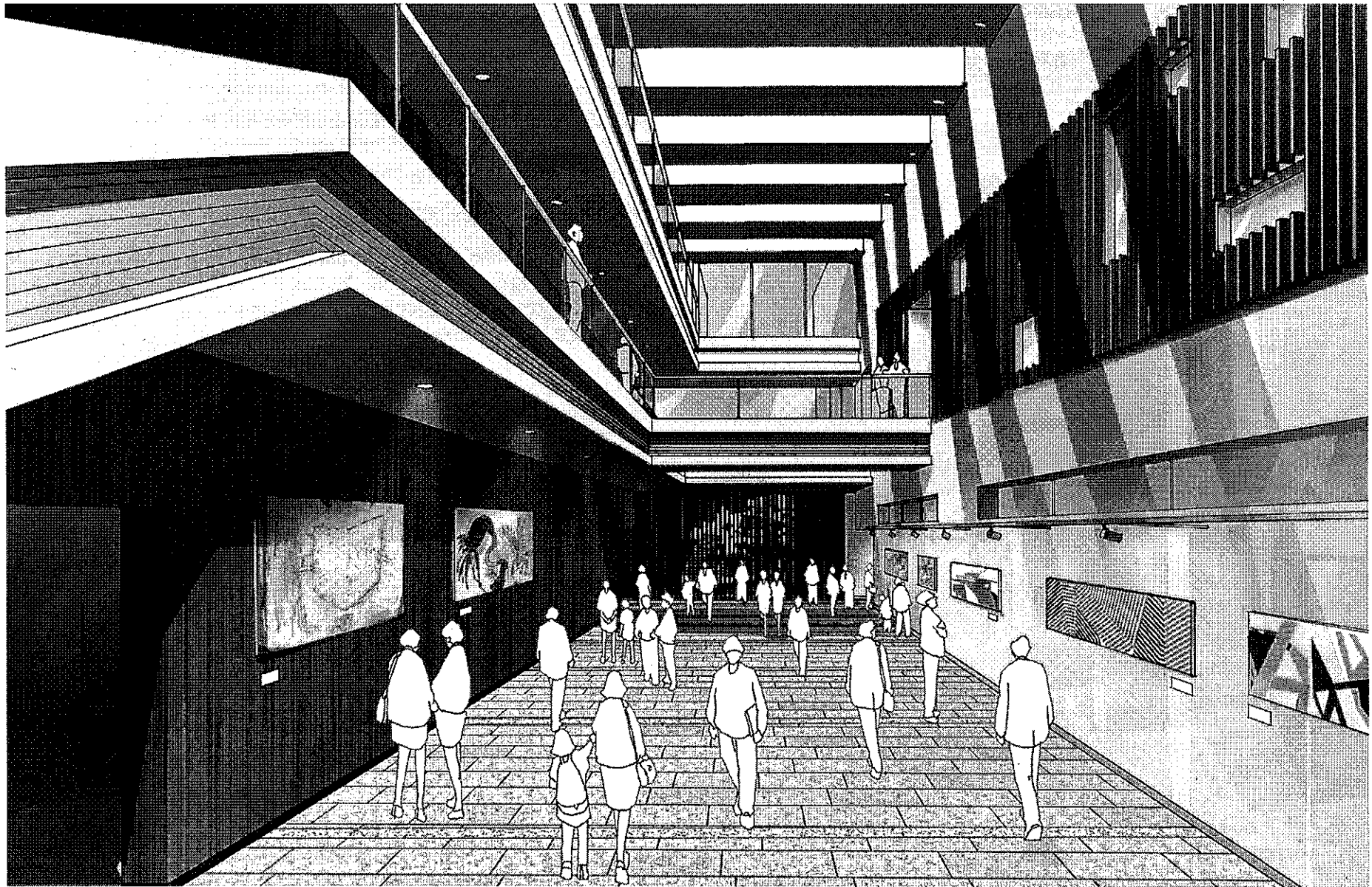
- ・大ホールと小ホールの間に集約した配置としているが、中庭を介して大・小ホールそれぞれの楽屋をゾーニングする。
- ・各施設の同時公演にも対応できるようセキュリティ計画を行い分かりやすい動線計画に配慮する。
- ・全ての楽屋は中庭もしくは外部に面し、居住性を高めている。

④ 事務・管理ゾーン

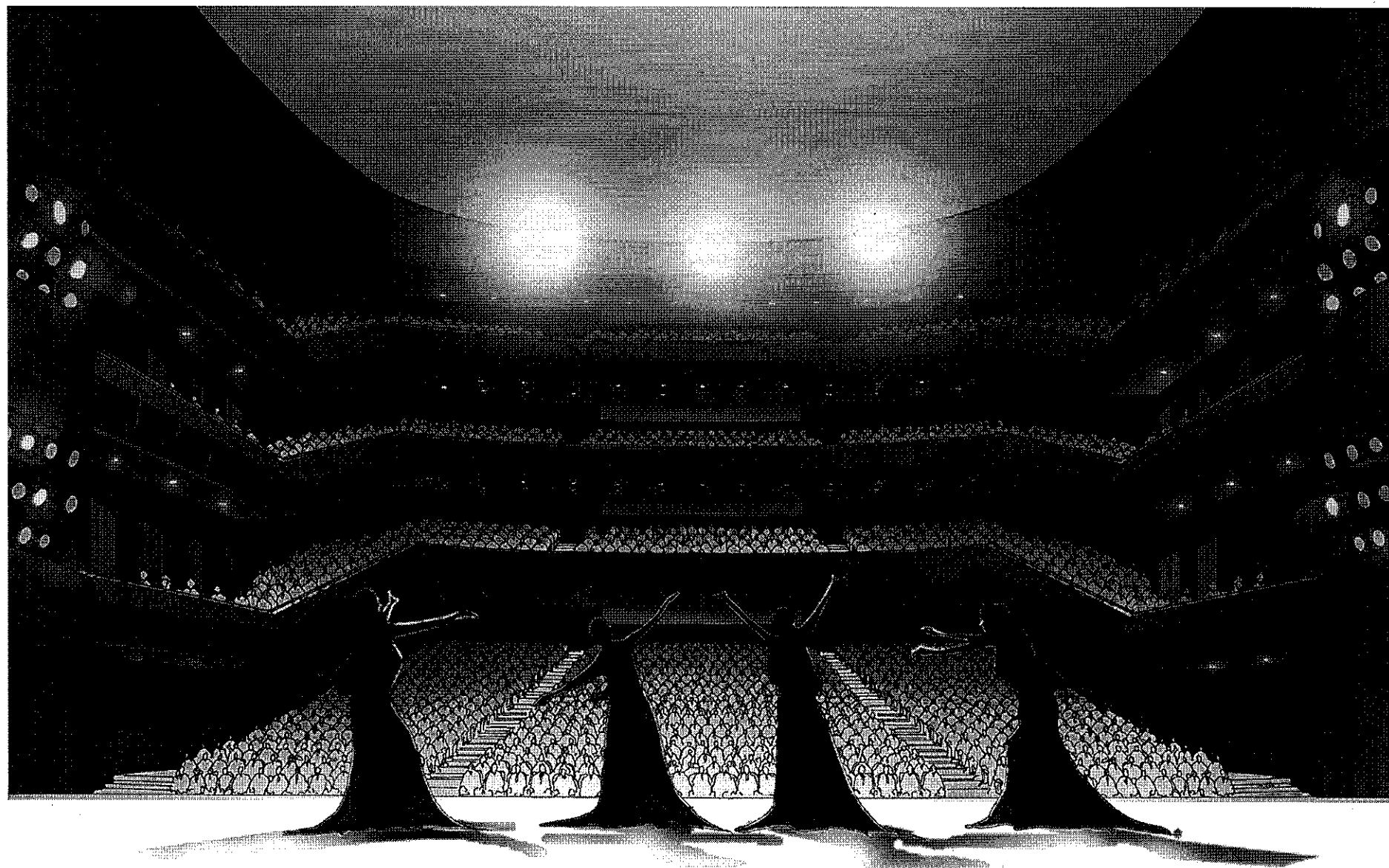
- ・管理・運営スタッフの出入口は楽屋口と共用とし、入退館の一括管理が行い易い計画とした。
- ・事務室はエントランスロビーと交流・創作ギャラリーに面する施設の中核に配置することにより施設管理動線を最小化し、効率的な施設管理を可能にする。

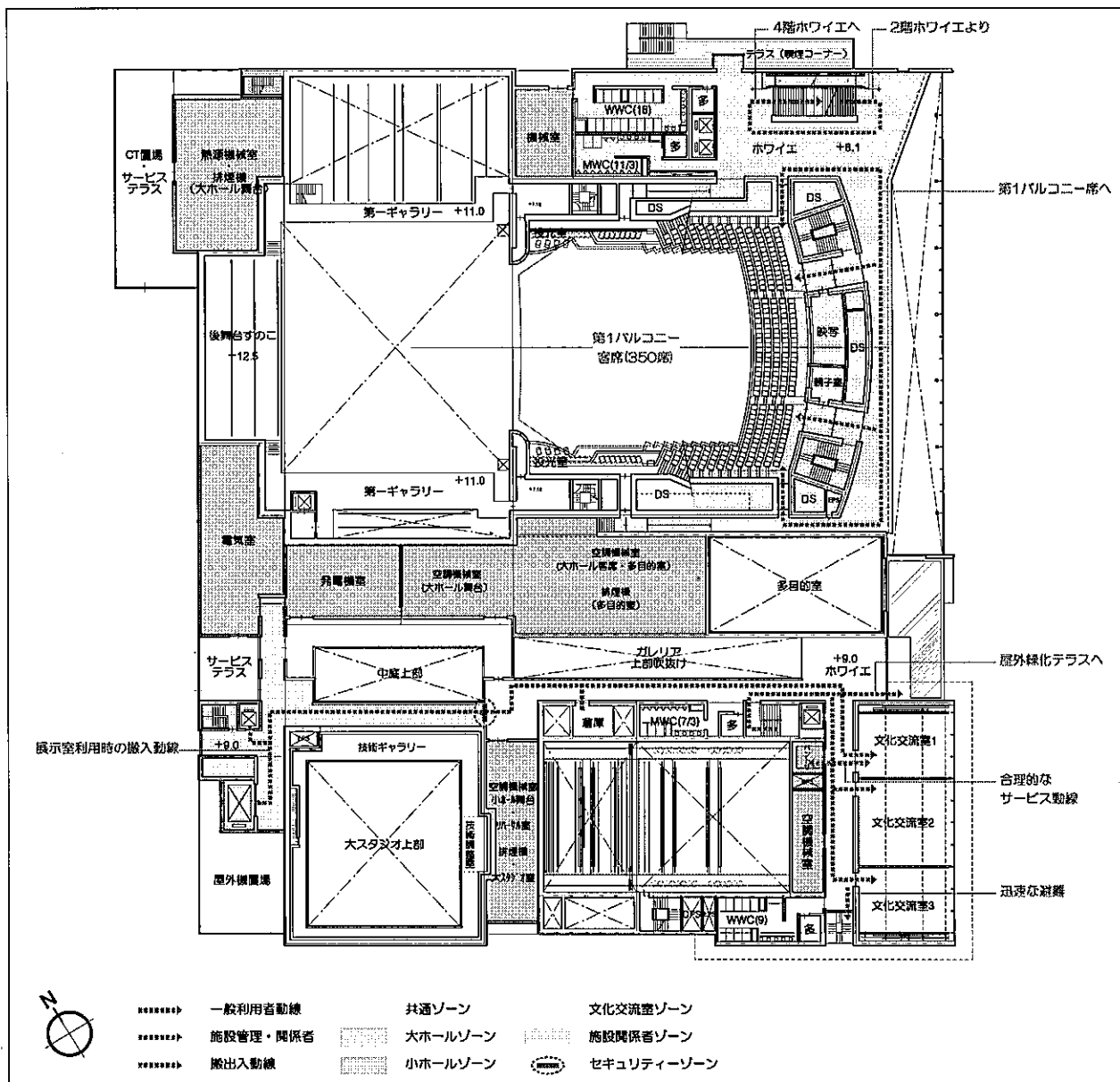
⑤ レストラン

- ・周辺の通りからも視認性の高いメインエントランスの前面に市民の憩い・交流の場となるレストランを設け、都市に賑わいと回遊性をもたらす市民交流の拠点とする。
- ・都市計画公園に向けて開いた構成のレストランは日常的な利用と共にアフターシアターの余韻を受け入れる場となる。



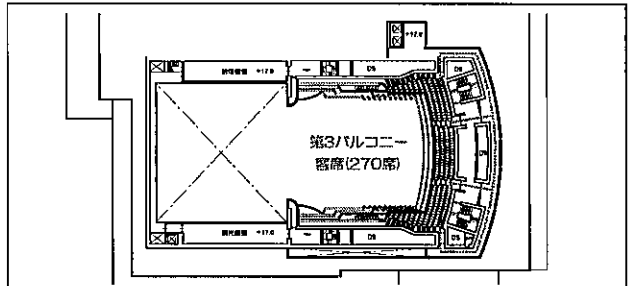




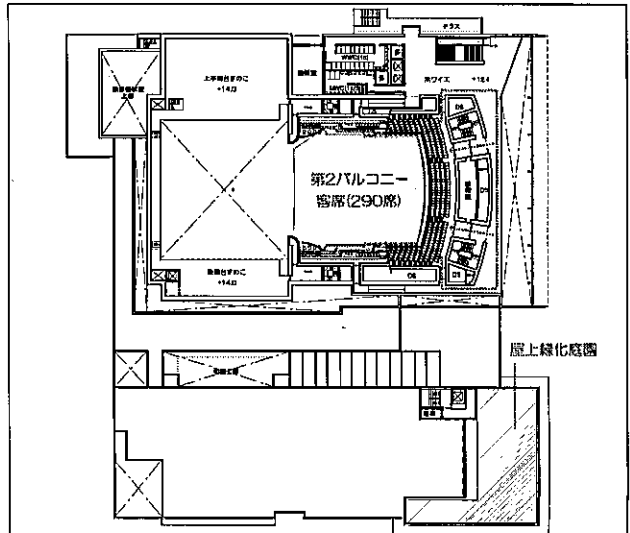


3階平面図 1/500

- (3) 平面計画 - 3
- ① 3階ホールゾーン
大ホールは、吹抜けに面するホワイエに出て第2バルコニー客席へとアクセスする。ホワイエの北側にはテラスを設け、大ホール来館者用の喫煙コーナーを計画。
 - ② 文化交流室ゾーン
エレベータまたは階段で3階へ上がると、多人数の会議や催しにも応じる吹抜けに面した十分なホワイエに出て、有効幅3mの廊下を介して文化交流室へ至る。また、搬入用EVからの経路も有効幅2.4mとし、搬入の容易さに配慮。可動展示壁を利用することで展示室にも対応。天井高3.9mを確保。



5階平面図 1/1000



4階平面図 1/1000

(4) 景観・色彩計画

基本方針

東立面はシンボリックなガラスによる大きな開口面により内外の視覚的交流が図られている。一方、南、西、北の立面はわずかな開口部があるものの、おしなべて壁面に覆われている。その壁面の随所を花崗岩本磨き仕上げとして周囲の緑や街の景色を映し込み、周辺環境を同化し調和するデザインとしている。

- 表裏の隔てなく全ての面が対面する環境に開放的で、特長ある表情を発信し、街並みや周辺環境を活きづかせる。
- 外壁材は周辺都市のイメージに合致すること、容易なメンテナンス性能、自然素材のぬくもり、時間の経過に耐えうることを考慮し花崗岩、コンクリート打放し（撥水剤塗布）、金属（熔融亜鉛めっきどぶ漬仕上げ、アルミ電解着色）による構成とする。
- 色彩計画では素材の持つ色を基調とし、周辺環境にも馴染むグレーを主体とした構成とする。
- 隣接する翁橋公園と都市計画公園の緑豊かな環境を敷地内へと取り込むと共にランドスケープと一体の施設構成となるよう意図した。

① 東立面計画

- 駐車場、翁橋公園、都市計画公園により形成されるオープンエリアに向けて開放的な立面となるよう透明ガラスが主体の構成とする。
- 会議室及び大ホールホワイエには庇を設け、日射熱負荷の低減を図ると共に、立面に深い陰影を与え表情を豊かなものとしている。
- ガラスのサッシ割を1200ピッチのモジュールとすることによりヒューマンスケールを意識した割付とする。
- 内部の活動が外部へと開いて見える、内外の視覚流通を意図した。

② 南立面計画

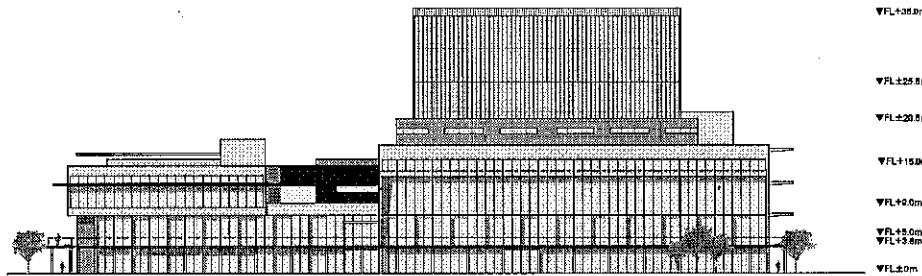
- 前面道路の国道310号は交通量も多いため、遮音性の高い壁面を主体とする構成とする。
- カスケードと緑地帯により道路からの騒音を極力確保することに加え、低層のテラスを設けることにより遊歩道への圧迫感の低減とテラス上の歩行者による賑わいの表出を図る。
- 車輛のアプローチ面となるため、壁面の凹凸やボリューム感の操作により、単調な壁面とならないようファサードにリズムを与えることを意図した。

③ 西立面計画

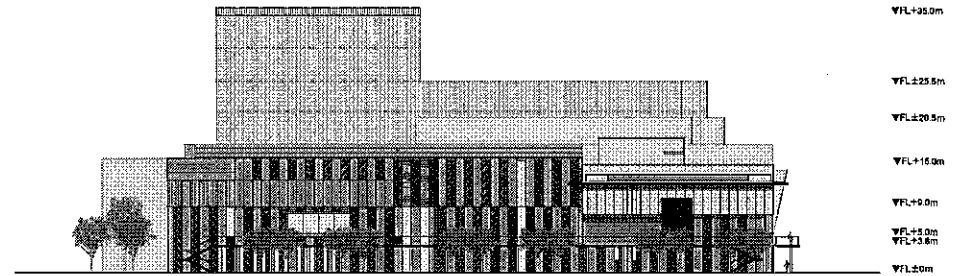
- 搬入口や楽屋口があるため、とかく裏としての意匠となりがちだが低層の楽屋群により大壁面の圧迫感を緩和し、楽屋諸室の開口により前面道路へのファサードを形成する。
- 楽屋群の開口はプライバシーを確保するとともに壁面の構成と統一感のある意匠としている。
- サービステラスや屋外機置場が面するため、素材を切り替えることで後舞台の大壁面に変化を加えている。

④ 北立面計画

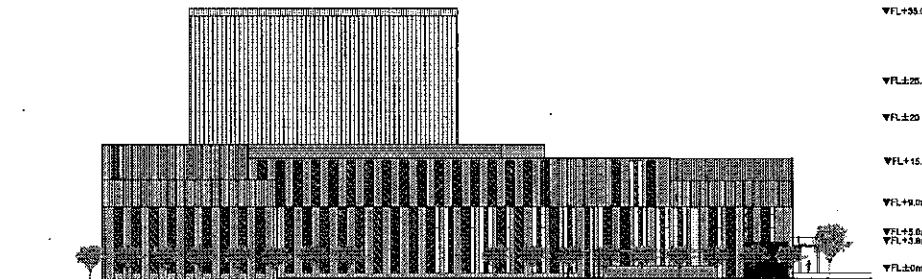
- 駅からの来館者のアプローチ面となるためフライタワーや上手舞台のボリューム感の低減に努めた。
- 4層に積層するテラス及び駐輪場を覆う庇による水平方向の分節、外部階段やホワイエ開口部による垂直方向のボリュームの分節等スケールダウンを図る。
- 東面から連続するテラスが回り込み、上部のテラスと共に人々の賑わいを来館者、歩行者へと伝える。



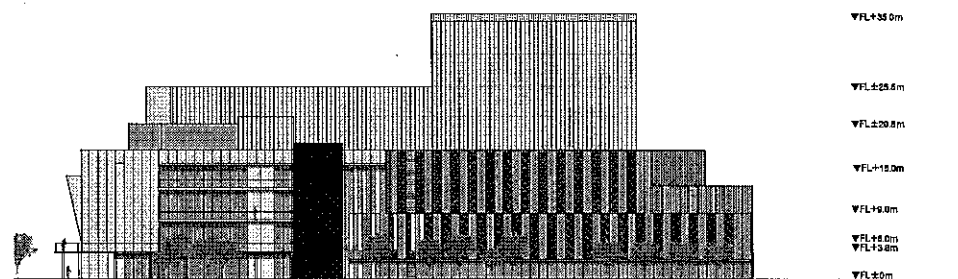
東立面図 1/700



南立面図 1/700



西立面図 1/700



北立面図 1/700

